

全国学力・学習状況調査の結果公表！

4月18日（火）に6年生を対象として行われた「令和5年度全国学力・学習状況調査」の結果が、7月末に文部科学省から公表されました。本調査は「子どもたちの学力・学習状況を把握して、今後の授業や生活習慣の改善に役立てること」を目的として行われています。なお、本調査によって測ることができるのは、あくまでも「学力」の特定の一部、学校の教育活動の一側面のみであることは、ご承知おきください。

今回の調査結果から見てきた成果や課題を、学校・家庭・地域で共有しながら、今後の教育活動に活かしていきたいと考えています。
以下、本校の結果とその分析および今後の取組について紹介します。



教科に関する調査の結果より

教科の平均正答率(%)

	国語	算数
本校	70	74
三重県	67	62
全国	67.2	62.5

本年度は、国語と算数の2教科で調査が行われました。

本校の各教科の平均正答率は、国語・算数いずれの教科でも、三重県および全国の平均を上回っています。昼生小学校が取り組んでいる「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善や、少人数ならではのきめ細かな学習指導などの成果が現われていると考えられます。また、各問題への無回答率も県や全国にくらべると低く、最後まであきらめずに問題に取り組もうとする子どもたちの姿勢がうかがわれました。

各教科の結果について、もう少し詳しく紹介します。

各教科の領域別の平均正答率(%)

国語	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	言語の特徴 や使い方に 関する事項	情報の 扱い方に 関する事項
本校	70.4	33.3	81.5	73.3	61.1
三重県	73.1	26.0	70.8	70.7	62.7
全国	72.6	26.7	71.2	71.2	63.4

左の表は、国語の出題内容を系統的に分類して領域別に分け、それぞれの平均正答率を示したものです。

トータルでは県平均を上回っているものの、領域別に見ると子どもたちの強みと課題

が見えてきます。「読むこと」「書くこと」「言語の特徴や使い方にに関する事項」の3つの領域では県や全国の結果よりも高い結果でしたが、「話すこと・聞くこと」「情報の扱い方にに関する事項」の2つの領域では県や全国の結果を下回る結果となりました。

特に、昨年度の結果において他の領域に比べて弱かった「読むこと」の領域が、大きく改善しました。昨年度の結果をうけて、「目的や場面などに応じて的確に内容を読み取り、その内容を利用・熟考する力」としての「読解力」の向上に取り組んだ成果であると考えます。

一方で、「話すこと・聞くこと」の領域における思考・判断力や表現力を問う設問に課題が見られました。「インタビュアーと二人の人物との対話」の文章を読んで答える問題において、インタビュアーの質問の意図を問う設問でその意図を正しくとらえられていなかったり、インタビューをして分かったことをインタビュアーの言葉としてまとめる設問で与えられた条件に合うように書いていなかったりする誤答がやや多かったです。話を聞いて自分の考えをまとめる際には、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、自分の考えをまとめることが大切です。そのような力を養うためには、実際に対話をしたり聞いたりする中で、どうしてそのような質問をしているのかを考えたりわかったことをまとめたりする体験を重ねる必要があります。また、今回の国語の設問の中で、県の正答率に比べて最も低かった(約16%)設問は、「パンフレットの中の重要な語句を四角や丸で囲み、線で結んだ資料」を見て、何をどのように整理したのかを答える設問でした。この場合においても、実際に自分で資料の重要な箇所を印をつけて整理する体験を重ねておくことが必要と考えます。

これらのことから、国語における本校の子どもたちの課題として、「実際に話す・聞く活動を通してわかったことをまとめたり、資料を整理したりする活動の充実」があげられます。

算 数	数と計算	図 形	変化と関係	データの活用
本 校	77.8	61.1	83.3	77.8
三重県	66.4	47.1	70.5	64.9
全 国	67.3	48.2	70.9	65.5

次に、算数の領域別平均正答率を見てみましょう。算数では、全ての領域で県や全国の平均正答率を大きく上回っています。1問を除く全ての設問で、県・全国の正答率を上回りました。このことから、

本校の子どもたちの「数学的な思考力」が育っていると考えられます。子どもたちが間違えている問題でも、どちらかと言うと「うっかりミス」的な誤答が目立ちました。

唯一、県・全国の正答率を下回った問題は、下の囲み枠の中のような設問でした。

3 辞典やファイルを、教室の後ろに並べようとしています。

(1) わかなさんの学級では、国語辞典と漢字辞典を1人1冊ずつ使えるように、ロッカーの上に並べることにしました。そこで、並べる前に、国語辞典と漢字辞典を全部並べた長さが、どのくらいになるのかを考えています。国語辞典1冊の厚さは5cm、漢字辞典1冊の厚さは4cm、学級の人数は28人です。

わかなさんとあきらさんは、国語辞典と漢字辞典を全部並べた長さが、何cmになるのかを計算で求めようと考え、それぞれ自分の並べ方をもとにして、次のような式を書きました。

【わかなさんの式】

$$5 \times 28 + 4 \times 28$$

【あきらさんの式】

$$(5 + 4) \times 28$$

わかな

国語辞典と漢字辞典に分けて並べたとして考えます。

あきら

1人分ずつ並べたとして考えることもできます。

ひまり

わかなさんの並べ方でも、あきらさんの並べ方でも、どちらも同じ長さになるはずですね。

【わかなさんの式】の「 5×28 」と、【あきらさんの式】の「 $5 + 4$ 」は、何を表していますか。
下の ア から エ までの中から1つずつ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 国語辞典28冊を並べた長さ
- イ 漢字辞典28冊を並べた長さ
- ウ 国語辞典1冊の厚さと漢字辞典1冊の厚さを合わせた長さ
- エ 国語辞典28冊と漢字辞典28冊を並べた長さ

『【わかなさんの式】の「 5×28 」と、【あきらさんの式】の「 $5 + 4$ 」は、何を表していますか。』(両方ともあっていて正解)という問いに対して、ほぼ全ての子どもが『【あきらさんの式】の「 $5 + 4$ 」は「国語辞典1冊の厚さと漢字辞典1冊の厚さを合わせた長さ」と答えているにも関わらず、【わかなさんの式】の「 5×28 」を約半数の子どもたちが「国語辞典28冊を並べた長さ」ではなく、【わかなさんの式】そのものである「国語辞典28冊と漢字辞典28冊を並べた長さ」と答えて誤答となっていました。これも落ち着いて解けば、できるはずの問題です。

また、県・全国の正答率よりは高いものの、「図形」領域の問題(特に、三角形の性質と三角形の底辺・高さと面積の関係)の定着が弱い傾向が見られました。

これらのことから、算数における本校の子どもたちの課題として、「反復学習による基礎・基本の定着」と「練習問題をたくさん解いて、問題に慣れること」があげられます。

児童質問紙調査の結果より

児童質問紙調査は、子どもたちの生活や学習の様子などをアンケート形式で問う調査です。「生活習慣等に関すること」「豊かな心の育成に関すること」「学習環境や授業等の教育活動に関すること」への設問があります。昨年度とは質問項目が変わっている部分もありますが、以下に本校の結果の一部を示して特徴をまとめてみました。

※ 数値は、各質問に「当てはまる・している」「どちらかといえば、当てはまる・している」と回答した割合の合計(%)です。

【基本的生活習慣等に関すること】

質 問 項 目	本 校	三重県	全 国
朝食を毎日食べていますか	77.8	93.6	93.9
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	77.7	80.1	81.0
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	88.8	90.7	90.5

昨年度と同様に、朝ごはんを毎日食べる習慣が定着していない児童がいます。朝食を食べないと、活動に必要なエネルギーが不足して、やる気がでなくてボーっとしたりイライラしたりする原因になってしまいます。朝ごはんはしっかり食べるようにしましょう。また、毎日、同じくらいの時刻に寝ている児童の割合が、昨年度よりは改善したものの、県・全国に比べやや下回っています。毎日、同じくらいの時刻に起きている児童の割合についても同様です。生活リズムを整えるよう心がけましょう。基本的生活習慣等に関する項目のいずれにおいても、県や全国の割合より低くなっていることが心配です。

本年度はスマホ利用やゲーム・動画視聴に関する質問項目はありませんでした。しかし、学校で5月に行った生活習慣の振り返りアンケートの結果を見ると、現6年生が1日のうちでゲームやテレビ視聴に費やす時間は平均3時間30分となっており、5年生のときよりも30分近く増加しています。これまでの傾向では、亀山市の子どもたちがゲームやSNS・動画視聴に費やす時間は、県・全国と比較して長い状態が続いていますので、本年度も同様であろうと推測できます。家庭でのスマホ・ゲーム等の利用の仕方について見直し、短い時間にとどめるようにしていく必要があります。

【自己有用感、達成感、挑戦心、社会への関心等に関すること】

質問項目	本校	三重県	全国
自分には、よいところがあると思いますか	88.8	81.9	83.5
将来の夢や目標を持っていますか	66.6	80.6	81.5
人が困っているときは、進んで助けていますか	88.9	92.3	91.6
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	100	97.4	96.9
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	77.8	76.3	76.5
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	100	96.1	95.9
今住んでいる地域の行事に参加していますか	88.8	64.4	57.8
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	88.9	77.9	76.8

いじめを否定する児童の割合と人の役に立つ人間になりたいと思う児童の割合が、昨年度に引き続きそれぞれ100%でした。昼生の子どものたちの良い点だと思います。その気持ちを、これからも持ち続けてください。また、地域行事へ参加している児童の割合や、地域・社会をよくするために自分にできることを考えている児童の割合が、県・全国に比べて上回っています。学校の教育活動に地域の皆さまのご協力をいただいていることが、昼生という地域社会の一員であるという子どもたちの意識を育てているのだと感じます。一方で、将来の夢や目標を持っている児童の割合は、県・全国と比べて下回っています。今は、あこがれや願望でもかまいません。自分の未来の姿に向けて、段階的に目標を設定しながら努力をすることが大切です。

また、上記の表にはありませんが、児童への質問項目の中の「学校に行くのは楽しいと思いますか」「友達関係に満足していますか」では肯定的回答が100%、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」では「よくある・ときどきある」の回答が100%でした。

【学習習慣、学習環境等に関すること】

質問項目	本校	三重県	全国
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)	77.8	68.7	70.7
学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか *1時間以上の回答	66.6	54.0	57.1
読書は好きですか	77.8	70.1	71.8
学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれぐらいの時間、読書をしますか *30分以上の回答	55.5	34.2	37.3
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	100	77.5	77.4

家で計画的に勉強している児童や、学習内容で分かった点・よく分からなかった点を見直して次の学習につなげている児童の割合が、県・全国を上回っています。また、読書への関心や読書時間についても、県・全国を上回っています。ぜひ、このような学習習慣・読書習慣を継続してください。

今後の取組について

各教科の調査結果から見てきた本校児童の課題として、「実際に話す・聞く活動を通してわかったことをまとめたり、資料を整理したりする活動の充実」と「反復学習による基礎・基本の定着」があげられます。また、学習で身に付いた力を実際に活用する場面(練習問題をたくさん解いてみることや、様々な教科・日常生活で学習したことを生かすことも含む)を充実させていくことも必要です。本校が取り組んできた「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善や、少人数ならではのきめ細かな学習指導などは継続しつつ、補充学習やeライブラリー等を活用して反復学習を充実させたり、問題文を読んで書かれていることを絵に描いたり図式化する活動などに引き続き取り組んでいきます。また、話す・聞く活動を通してわかったことをまとめ表現する機会の充実を図ります。ご家庭におかれましても、家庭学習(自主学習を含む)の習慣や基本的な生活習慣の改善に向けて、学校と連携した取組をお願いします。